



ニューロスターによる経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）開始のお知らせ

自治医科大学附属病院（栃木県下野市薬師寺 3311-1 病院長 佐田尚宏（さた なおひろ））は、2021年1月から治療抵抗性うつ病に対する新しい治療法である「経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）」を開始します。

「経頭蓋磁気刺激療法（rTMS療法）」は、パルス磁場による誘導電流（渦電流）で特定部位の神経細胞を繰り返し刺激して、うつ病の症状を改善させる治療法です。うつ病患者の約3割は抗うつ薬による治療に反応しないと言われています。

rTMS療法は、18歳以上のうつ病の診断を受けている方で、抗うつ薬による適切な薬物療法を行っても十分な効果が認められず、中程度以上のうつ病症状が持続している方が対象となります。日本では磁気刺激治療装置「ニューロスター（ニューロネティクス社製）」を用いたrTMS療法が2019年6月より保険診療の適応となりました。

当院精神科では、2021年1月からニューロスターによるrTMS療法を開始します。rTMS療法は、MRIや脳波検査で脳に大きな異常がないことを確認した後に、訓練を受けた精神科専門医の指示のもと、1日40分、週5日のペースで4週から6週間、合計20～30回行います。この治療は入院において実施します。

うつ病がなかなか改善せず、rTMS療法を受けることを希望される方は、紹介状をご持参の上、当院精神科外来を受診下さい。

【須田史朗・精神科科長コメント】

自治医科大学附属病院精神科では、治療抵抗性うつ病に対する治療に力を入れています。経頭蓋磁気刺激療法（rTMS療法）は、抗うつ薬による薬物療法と同等以上の有効性がありますが、内服による治療を必要とする薬物療法と比べて副作用が起こりにくく、体への負担も少ないのが特徴です。

磁気刺激治療装置「ニューロスター」によるrTMS療法の実施施設はまだ少なく、北関東エリアでは当院が初の導入となります。この新しい治療法を、症状に苦しんでいる多くの治療抵抗性うつ病患者さんにお届けできればと考えております。

rTMS 装置



治療イメージ



問い合わせ先・発信元
自治医科大学附属病院精神科
TEL0285-44-2111（代表）